

和算福田流



福田金塘
ふくたきんとう

—1858

下真桑八ツ又に生まれる。本名を復、通称直七郎といい、字は嘉当、美濃正、徳本などともいった。また、号を金塘、貫通斎と称した。

父は大阪天満樽屋町で商売を営んだが、金塘は14歳の時に商業の道を捨てて、学問の道を志した。和算関流の武田真元に学び、小出兼政についても学んだ。大阪今橋に福田塾を開いて門弟千余人を数えた。当時福田塾に学んだ「福田流算士千人鑑」という番付様の門人名簿が残されている。